

山形県経済動向月例報告（令和3年10月分）について

＜本県経済の現状判断＞ ※

	前回(9月)	判断の 変化方向	今回(10月)
総括 判断	本県経済は、新型コロナウイルス感染症の影響により、依然、厳しい産業もあるものの、緩やかに持ち直している。		(同 じ)
個人 消費	サービス消費で引き続き厳しい状況が続いているものの、財消費においては堅調に推移しており、着実に持ち直している。		サービス消費では引き続き厳しい状況が続いており、財消費においても <u>持ち直しの動きに足踏み感がみられる。</u> 【8月】
鉱工業 生産	持ち直している。		(同 じ) 【7月】
雇用 情勢	感染症の影響により、一部で弱い動きが続いているものの、総じてみれば改善している。		(同 じ) 【8月】

※今回は、令和3年8月分の各種経済指標を中心とした判断。矢印は、前月と比較しての変化方向を示す。

【上記判断の理由】

○個人消費

- ・スーパーや家電大型専門店などの「6業態販売額」は、新型コロナウイルス変異株の感染拡大や天候不順等により人出が減少したため、2か月ぶりに前年同月を下回った。(全店舗ベースで△1.8%)。家電などの販売額も落ちており、全国的に耐久消費財に対する巣ごもり需要が一巡したとの見方も出ている。新車登録届出台数も、引き続き海外での新型コロナウイルス感染拡大に伴う部品生産減少の影響等により、前年同月を下回った。
- ・宿泊・観光についても、依然としてコロナ禍前の水準を下回っている。(観光庁・宿泊旅行統計調査速報(7月)によると、県内の延べ宿泊者数は2019年同月比で△31.9%)
- ・小売販売額が全体的に落ちており、特に家電・自動車における落ち込みが大きかったため、財消費に関する判断を「持ち直しの動きに足踏み感が見られる。」とした。

○鉱工業生産

- ・令和3年7月の指数(100.7(H27=100))は前月比△3.0%と2か月ぶりに低下。一部に部品不足の影響による生産の減少が見られるものの、全体として生産水準に大きな低下傾向は見られないため、前月からの変化方向については据え置きとした。

○雇用情勢

- ・一部業種の新規求人の動きは依然として弱いままであるが、引き続き有効求人倍率が1.3倍台を維持しており、事業主都合の離職者も減少するなど改善の動きが続いていることから、前月からの変化方向については据え置きとした。

○「総括判断」の前月からの変化方向について

- ・財消費に足踏み感がみられるものの、生産・雇用では持ち直しの傾向が継続しているため、総括判断の変化方向については据え置きとした。